

**留学先国名** : アメリカ合衆国

**留学先学校名** : ワシントン大学シアトル校

**留学期間** : 平成 27 年 9 月 30 日 ~ 平成 31 年 6 月 30 日

私が留学することを決意したのは、高校 2 年生の終わり頃です。私は小学生の頃、父の仕事の関係で 2 年間アメリカの北西部にあるシアトルという街に住んでいたことがありました。その時に、夏休みのサマーキャンプでシアトルにあるワシントン大学を訪れました。私にとって「大学」というものを間近で見るとは日本にいた頃を含めそれが初めてで、私は一気にワシントン大学に魅了されました。それから約 10 年間、アメリカの大学に進学したいと思う私の気持ちは、将来語学を活かして国際連合で働きたいという夢も相まって、膨らみ続けるばかりでした。しかし大阪の公立高校に入って、自分の周りは日本の大学、特に国立大学を目指す人がほとんど。学費のこともあり、アメリカへの留学は私が選ぶべき進路ではないのかもしれない、そう思っていた私の背中を押してくれたのがおおさかグローバル塾による 2 週間の短期留学プログラムでした。再びアメリカの大学を訪れることができたことはもちろん、同じように世界へ飛び立とうとする仲間と触れ合うことができたことは私にとって大きな刺激になりました。

留学のための受験勉強で一番大変だったことは、高校の成績が低かったことです。アメリカの大学に合格するためには、GPA という高校の成績を数値化したものが高ければ高いほど有利ですが、私は目標の大学へ行くための GPA には及んでいませんでした。もちろん高校のレベルが高いと良い GPA を取ることも難しくなるのですが、アメリカの大学入試では残念ながら高校のレベルは大して重要ではありません。もう一つアメリカの大学を受験するにあたって大事なものは、SAT という統一試験です。私が受験した頃は読解・ライティング・数学の 3 科目を受験しなければなりません。この SAT への準備は、早すぎるということなんてありません。実際私が本格的に SAT の勉強をし始めたのは高校 2 年生くらいの頃でしたが、もっとずっと早く始めていればよかった、と今でも思います。

他にも先生からの推薦状などの書類を揃い終えて大学に出願する際、私は出願する大学を難易度順に滑り止め、安全圏、挑戦校の 3 つに分類しました。結果は、滑り止め校には全て合格しましたが、レベルの高い挑戦校は不合格でした。しかし、安全圏に分類していたワシントン大学には無事合格し、最終的にそこに入学することに決めました。

ワシントン大学は西海岸屈指の規模の大きな大学で、生徒数も非常に多いです。渡米前に相談した留学カウンセラーの方からは「生徒が多すぎて教授と触れ合う機会が少ない、留学生には適していない」と聞いていましたが、実際に入学してみて、これは必ずしも正しいわけではない、と思いました。確かにワシントン大学は人が多くて、授業をサボろうと思えば簡単にサボれますし(単位が取れる保証はありませんが)、楽をしたい人にはちょうどいい環境であると思います。しかし、意欲のある生徒は、Office Hour という教授と直接話すことのできる時間をフル活用して積極的に教授との距離を縮めることができます。私も最初の学期に 100 人を超える大きなクラスを取っていましたが、教授が毎週カフェテリアで行っていた座談会に

できるだけ参加していたため、その学期が終わってもまだ教授に顔を覚えてもらえていたことがありました。小規模の大学では大学側が生徒の管理をしっかりしているのだと思いますが、ワシントン大学では生徒のやる気が学生生活に大きく関わってくると思います。

何事にも積極的にすすんでやるという事は、学業以外の面でも非常に大事です。ワシントン大学のような大きな大学では、高校時代に比べて親密な友達を作る事が簡単ではありませんでした。そんな中でも、私が色々な人とつながる事ができたのは、ルームメイトとサークルのおかげです。私は去年1年間は寮に住んでいましたが、寮には私のような留学生がとても多く、同じような環境にいる友達がたくさんできました。しかし、もっとたくさんの人と繋がりたいと思った私は、高校時代にやっていた剣道のサークルが大学にある事を知り、剣道サークルに入部しました。サークルでは、アジア系の人が多かったですが、生まれも育ちもアメリカという人がほとんどでした。それまで私は、アジア系アメリカ人の事は知っていましたが、実際にそんな人たちと触れ合うと、多くの偏見を抱えていた事に気がつきました。それまでどうしてもアジア系や白人といったカテゴリーでしか人を見ていなかった私ですが、剣道サークルに入って、様々な生い立ちの人々がいることを実感しました。これは、毎日寮にこもってばかりの生活では得られることのできなかつた経験だと思います。私のように海外留学する人たちに伝えたいことは、とにかく何事にもチャレンジしてみる事が大切だということです。当たり前のことのようにですが、アメリカではこれをしている人としていない人の間では大学生活の充実ぶりが全然違うことがわかります。